

見方・考え方を変える勇気

皆さんは、挨拶をしたのに相手が無言だったら、どんな気持ちになりますか。そんな経験も何度かあるのではないか。「周りの声にかき消されて／頭の中が何かで一杯で、聞こえなかったのかもしれない。」などと、直ぐに気を持ち直して別の見方に切り替えられることができればよいのだが、「えっ、どうして？」と悲しくなったり、「無視するなよ。」と怒ったり、あまり親しくない相手だと「もう二度と挨拶などするものか。」などと思うこともあるかもしれない。このように、予想外のことや自分に不都合なことが起こると、私たちは、きちんと状況や真偽を確かめもせず、一つの見方・考え方にとらわれてしまい、柔軟な姿勢に修正することが難しくなるものである。

ところで、皆さんの中に、こんな人はいないだろうか。「コロナ、コロナといつまで騒いでいるんだ。自分は全く怖くないし平気だ。」「マスクなんて意味ないし、手洗いも面倒くさい。自分は絶対に感染しないから大丈夫だ。」など、現実を見ようとしない「命知らずの楽道家」である。逆に、「感染者や死亡者が増え続けている。これから一体どうなるんだ。」「いつ自分も感染するかと心配で心が押しつぶされそうだ。もうおしまいだ。」など、これも現実を正しく認識できない「厭世家」である。両者に共通しているのは「極端な見方・考え方」である。

今、コロナ禍の中で自粛生活を余儀なくされている私たちには、このような「極端な見方・考え方」ではなく、「それでもなんとかやっていける、やるしかない。」と思える柔らかな感覚と強い覚悟が求められている。「かたくなさ」や「こだわり」からどれだけ自由になれるか、状況に応じて見方・考え方を变える「勇気」を持てるかどうかである。皆さんにも「強いしなやかさ」を持ってほしい。

頑張れ徳風生！



校長 東則尚